



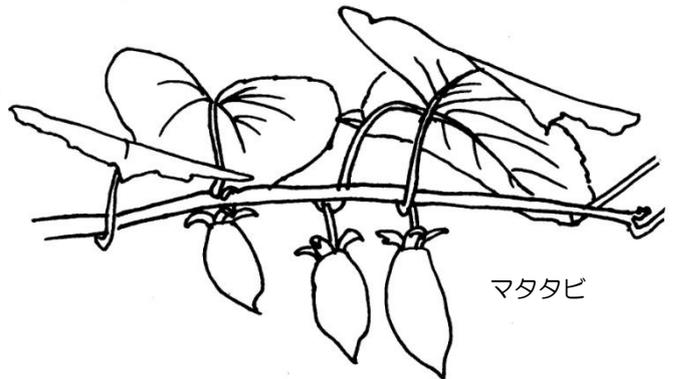
只見町ブナセンターだより

2月号

ウサギとカジカの雪像を見に来てけやれ!

マタタビ細工 使ってやっかい?

米や野菜を洗ったり、収穫した豆やキノコを干したり、なにかと便利なザル。雪の少ない地域ではマダケを使った竹細工が一般的ですが、豪雪でマダケが自生しない只見町では、マタタビを使います。マタタビ細工は、水に濡れるとしなやかで、ささくれることもなく、その良さが見直されています。



マタタビ

ひと冬に30個ほどのザルを編み続けている渡部安喜さん（蒲生）に話を聞きました。

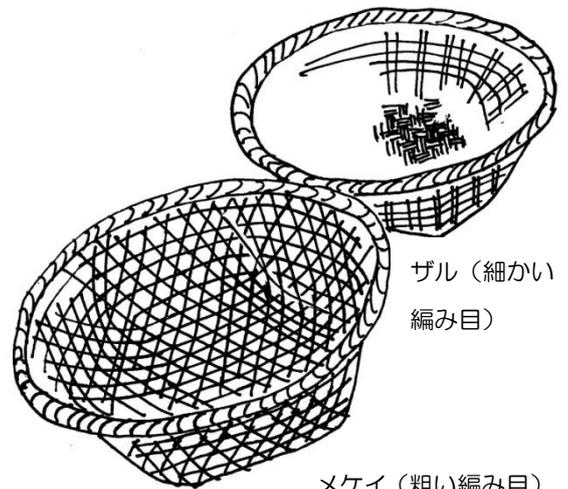
Q. 桶(おけ)職人の安喜さんが、マタタビ細工を始めたきっかけを教えてください。

「おれは学校さ、でてから本名(金山町)の親方に5年間、年季奉公して、風呂桶や味噌桶をこしらえる仕事をしてきたのなあ。

マタタビ細工を始めたのは40歳代になってからだ。いつのまにかザルを作る人がいなくなって、このままでは作り方が廃れてしまう。だれかが作ることを覚えてなければまずいなと思った。我々の年代で、マタタビ細工やっている人はいねえだ」

Q. マタタビ細工はだれに教わったんがや?

「だれにも教わんねえなあ。このへんはおれらの親の世代まで、どんな道具も自分で作るのが当然だった。どの家も物は買わずに自分で作っ



ザル(細かい編み目)

メケイ(粗い編み目)

【安喜さんの手順】

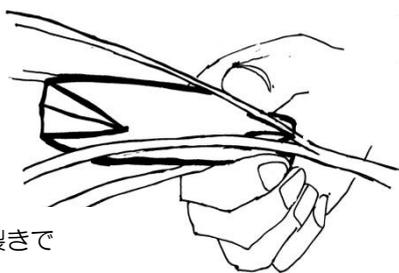
- ① 山から1年目のツルを採ってくる
- ② 刃物で皮をむく。皮はネコの好物
- ③ 手製のマタタビ裂きで4つまたは3つに裂く
- ④ 必要な幅に1本1本削って整える
- ⑤ 不要な芯の部分を削り落とす
- ⑥ 編む
- ⑦ 屋外に吊るして風雪にさらす

てきた。桶屋や番匠みたいな特別な仕事は親方について修行しなきゃなんねえが、ザルの編み方は人の編んだものを見れば、たいてい分かるもんだ。

マタタビは、材料の加工が容易じゃねえが、子めらのころから年寄りじいさまがこさえるのを見て育ったから、記憶をたどって、なんとかできたなあ」

Q. マタタビは山から採ってくるのがや？

「そうだなあ。11月半ば、木の葉が落ちたころ、山さ行って、マタタビのツルを切ってくる。新芽がのびて1年目から2年目のやわらかいツルでないと、かたくてダメだ。マタタビ細工をする人



マタタビ裂きで
ツルを4つ割に裂く

は、自分の採る場所が決まっていて、毎年同じ木から新しいツルを採るのが、ふつうだなあ」

Q. 作り方を教えてけやれ

「加工を始めるのは、忙しい秋が終わって、すっかり雪が積もっちゃってからだなあ。刃物できれいに皮をむいたツルを、4つ割りに裂くんだが、これはホオノキを十字型に削った道具を当てて、ほらっ見てみやれ、スルッと裂けるべ。こうして割ったツルを1本1本、必要な幅に削って、さらに芯の部分を削り落とすと、ようやく材料ができる。マタタビの下準備は、きこんのいる作業だあ。

編み終わったザルは、冬の間、表に吊るして雪あらしにさらしておくと、丈夫で色の白いきれなザルに仕上がる。かた雪わたりのころに、また見にきゃれ」

Q. 作業を見せてけやったから、よくわかりました。ありがとうでやした。聞き手:晶子

連載・ただみの川の生き物—5

オスは片手が大きい

サワガニ

エビ目（十脚目）カニ下目サワガニ科／沢蟹



きれいな沢の浅瀬や砂利のすき間に棲んでいます。一生を淡水で暮らす日本固有のカニで、青森から屋久島まで広く分布します。

オスとメスの見わけ方は2つ。左右のハサミの大きさが違うとオスで、同じだとメス。また、俗にふんどしと呼ばれるおなかの形が三角だとオス、丸いとメスです。

サワガニは10年近く生きるといわれ、冬は岩陰などで冬眠し、夏に繁殖します。母ガニはお腹に卵を抱いて1カ月ほど陸で隠れて過ごし、子ガニがふ化するときに水中に戻ります。さらに10日間ほど子ガニを抱いて外敵から守ります。巣立った子ガニは脱皮をくり返して大人になります。

野山のハンター

オオトビサシガメ

カメムシ目サシガメ科/大鳶刺龜虫

嫌な臭いを出すカメムシの中には、肉食性で他の昆虫などを捕食するサシガメ（いわゆる刺すカメムシ）というグループがあります。今回紹介するオオトビサシガメは、只見町で普通に見られる大型のサシガメです。

体長は 2.5cm ほど、体色は茶色でやや細長い体型をしています。彼らは、林縁や樹林に接している草地などに生息していますが、人里で目にする機会が最も多いです。特に秋に建物の壁面に静止している個体をよく見かけます

これまでに何度かオオトビサシガメが他の昆虫を捕食している場面を観察したことがあります。捕食する瞬間を私は見たことがありません。昨年春、スギの伐採木上でヒメスギカミキリを捕食しているのを見つけました。伐採木の上を素早く歩き回るヒメスギカミキリを、動きがゆったりしているオオトビサシガメがどのようにして捕らえるのか、ぜひ確認したいです。

筆者●角田亘さん／1974年、只見町小林で生まれ育つ。横須賀市自然・人文博物館研究員を経て、現在は神奈川県で造園業に就く。只見町での昆虫採集をライフワークとし、現在 2000 種以上を採集。

【町内の自然とふれあうイベント情報】

3月5日(土)・6日(日)

○春休み雪中キャンプ

集合場所：季の郷・湯ら里 午前 10 時

参加費：4,000 円

参加資格：小学 3 年～中学 3 年

主催：ただみコミュニティークラブ

問い合わせ：0241-86-2671

4月2日(土)～3日(日)

○遠藤勇先生のバードカービング講座

会場：ブナと川のミュージアム

参加費：4,000 円～4,500 円

(材料費・指導料込み)

対象：小学校高学年以上

募集定員：25 名

申込〆切：3月23日(水)まで

主催：只見の自然に学ぶ会

問い合わせ：0241-82-3242

3月6日(日)

○スノーアドベンチャー

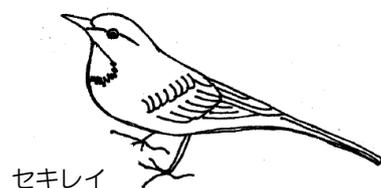
会場：只見スキー場

参加費：1000 円

主催：会津ただみ振興公社

問い合わせ：0241-82-5250

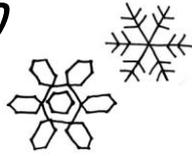
只見町観光まちづくり協会



セキレイ



スノーパーク で遊ぼう

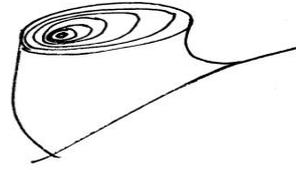


ブナと川のミュージアム前の公園に、1周15分ほどの散策コースを作りました。スタッフが道ふみをしているので長靴で歩けます。カンジキを体験したい人は貸し出します。

広々とした雪原には、コゲラ（キツツキの仲間）のいるシロヤナギの林があり、丘の上から浅草岳や蒲生岳、柴倉岳が一望できます。しばらくは、雪まつりのために制作した雪像（ミスバニー、ミッフィー、カジカ）がお待ちしています。

■ブナを知ろう ⑦

広葉樹は山側が太る



○斜面に生える木は、倒れないよう片側を太らせてバランスをとります。ブナなどの広葉樹は山側を太らせる性質があり、針葉樹は逆に谷側を太らせる性質があります。

【特別展示】 開催中～2月28日（月）

「只見の民具とその素材展」

只見町には、祖先から受け継いできた数多くの民具があります。企画展は、只見の先人たちの知恵や創意工夫を特集しています。国重要文化財指定の民具も展示しています。

【特別展示】 4月1日（金）～5月30日（月）

「絶滅危惧種ユビソヤナギのすべて」

伊南川のユビソヤナギは国内最大の自生地です。絶滅の危機にあるユビソヤナギの生態や特徴を豊富な資料をもとに紹介します。



只見町ブナセンター

Tel **0241 (72) 8355** fax 0241 (72) 8356
〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下
2590 番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内

web サイト <http://www.tadami-buna.jp>

ブログ <http://tadamibuna.blog2.fc2.com/>

E-mail info-buna@amail.plala.or.jp

